

福井大学地域環境研究教育センター研究紀要
「日本海地域の自然と環境」
No.13, 109-111, 2006

平成18年豪雪と平成13年大雪の福井市内での交通渋滞の比較

Comparison between Traffic Jam Caused by "Heisei 18 Heavy Snow" and One by "Heisei 13 Heavy Snow"
in Fukui City

宮本 重信*
(福井県雪対策・建設技術研究所)
室 嘉治**
(福井県道路保全課)

1. はじめに

平成13年大雪では福井市街地で大変な交通渋滞が生じたが、平成18年豪雪ではそのような渋滞は同じ福井市街地で生じなかった。その原因として、1. 気象 2. 北陸自動車道の通行止め 3. 除雪や融雪の違いが考えられる。以下、それぞれについて考えていく。

2. 気象の違い

まず、気象の違いを明らかにするために、福井地方気象台の観測値結果を平成18年豪雪と平成13年大雪でそれぞれ最も激しく降った期間を含む降り始めからその終わりまでの積雪深と時刻ごとの降雪深、降水量を図-1、図-2に示した。また、降水量の積算値と積雪深を気温変化と合わせて、図-3、図-4に示した。図-1、図-2から平成13年1月に比べて平成17年12月は、降水量は多いが降雪深は少ないことが分かる。図-3、図-4からは、前者が期間中の積算降雪量146cm、積算降水量142mmで降雪密度は約0.1となるが、後者は積算降雪量70cm、積算降水量198mmで降雪密度は約0.35となる。気温は前者が-1℃前後で、後者は0℃以上となっている。このように平成13年1月に比べて平成17年12月は、連続した降雪での積算降雪量が約1/2にすぎなかったことが、市街地の圧雪や除雪の遅れでの交通渋滞を招かなかった原因となっている。他に、降雪日が交通量の少ない週末であるかどうかについてであるが、図からは平成13年1月と平成17年12月に特別の違いがあるとは思われない。

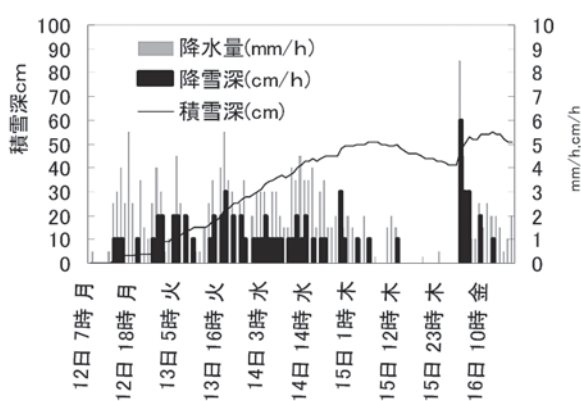


図-1 平成17年12月の降水、降雪、積雪深

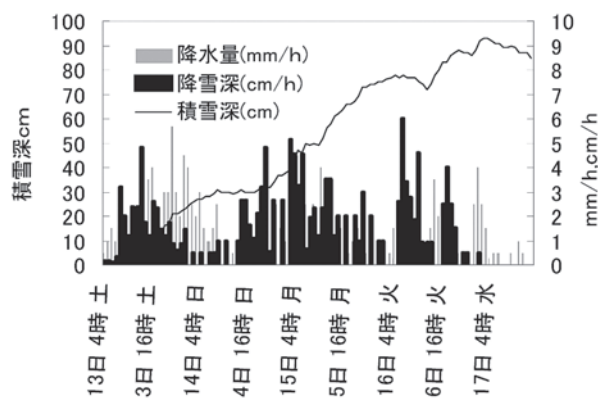


図-2 平成13年1月の降水、降雪、積雪深

(キーワード：平成18年豪雪、交通渋滞、福井、平成18年大雪)

* Shigenobu MIYAMOTO

(SNOW MANAGEMENT & CONSTRUCTION TECHNOLOGY CENTER OF FUKUI PREF.)

** Yoshiharu MURO

(ROAD PRESERVATION DEPT. OF FUKUI PREF.)

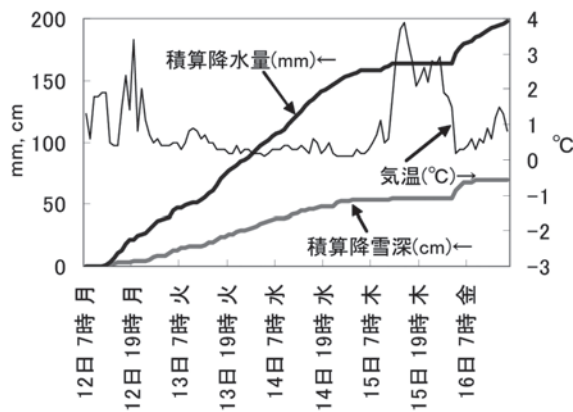


図-3 平成 17 年 12 月の積算降雪深、積算降水量、気温

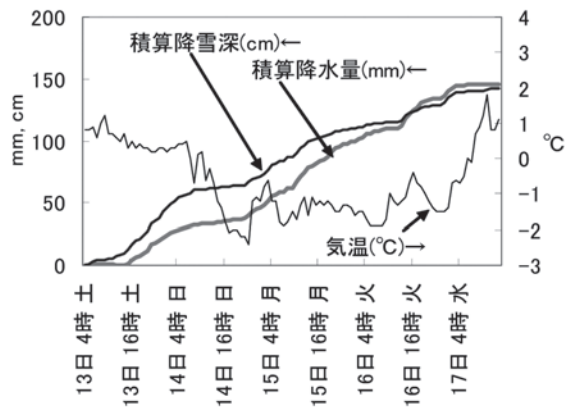


図-4 平成 13 年 1 月の積算降雪深、積算降水量、気温

3. 北陸自動車道の通行止めの影響

次に 2. の北陸自動車道の通行止めの影響についてであるが、福井市での交通量は、北陸自動車道が約 2.5 万台/日で、国道 8 号線が約 4.5 万台/日、旧国道 8 号線が約 2.0 万台/日であることから、北陸自動車道が通行止めになると、それが福井市街地の南北を繋ぐ道路に大きな影響を与え、雪道の渋滞を加速する。

平成 13 年 1 月は北陸自動車道の通行止めが、北陸自動車道に沿う国道 8 号線、旧国道 8 号線など南北を結ぶ福井市街地の道路の渋滞を招いた。具体的には、1/14～15 視界不良のため福井－加賀間上下 16 時間通行止め、1/16～17 除雪・凍結のため丸岡－敦賀間上り線断続的に通行止めと福井市街地を挟んでの通行止めが頻発した。

一方、平成 17 年 12 月では福井の市街地に影響する通行止めが 12/18 鯖江－金津間上下 2 時間通行止めと少なく、しかも 12/18 は降雪が一段落しており影響がなかったものと推測される。このように、北陸自動車道の閉鎖が平成 13 年とは異なり、福井市街地前後で生じなかったことが、福井市街地での混乱を招かなかった直接の原因であると考えられる。

ただし、この水分を含んだ重い雪は、越前市から敦賀市の倒木を招き、北陸自動車道と国道 8 号線、国道 476 号線の通行止めをもたらした。北陸自動車道の同区間に関しては、平成 13 年に比べて除雪体制を約 2 倍にして、計算上は 20 分に一度除雪するという態勢で臨んだが、倒木で渋滞するとスリップして坂を上れない車が生じて、除雪車の機動性が十部発揮されない事態となった。

4. 融雪装置整備などの効果

平成 13 年の渋滞後、その対策として福井県は、福井市街地県道の融雪装置を集中的に延長し、約 18 km が新たに整備され、総計 66.3 km と 37% 増えた。融雪整備箇所には、大名町交差点（市内電車との交差）など渋滞を招く交差点があり効果が大きい。除雪態勢も強化された。これらの効果が、平成 18 年豪雪での渋滞緩和に大きく寄与したかどうかは、前述の気象の違いや北陸自動車道の通行止め影響があるために判然としない。

5. まとめ

以上から、平成 18 年豪雪は水分の多い雪であったため降雨量に比べて降雪量は少なく、連続した

降雪での積算降雪量は平成13年1月の約1/2であったこと、そのことから北陸自動車道も倒木による通行止めが山間部で生じたが福井市街地を挟む平野部ではほぼ通行止めに至らなかったこと、そのことで北陸自動車道から流れた自動車による平成13年1月のような福井市街地の交通渋滞を招かなかったと考察される。

対策としては、交差点の前後を市道、県道、国道など管理者の違いを超えて重点的に融雪や除雪を行うことが交通渋滞緩和に効果的である¹⁾。

文献

- 1) 高島浩一：交差点部における従路線への消雪施設延伸（追加）の有効性およびその必要長さの検討， 福井県雪対策・建設技術研究所年報地域技術第18号 pp.1-8, 2005.7